

『兵庫津未来を探るシンポジウム』記録 2025・2月9日

2月9日(日)13時より16時過ぎまで兵庫県立兵庫津ミュージアムにおいて、「兵庫津の未来を探るシンポジウム」一般申し込みと国、県、市の行政担当者、地元選出議員 計150名で開催されました。

兵庫漁業協同組合 糸谷末二郎組合長の開会挨拶から始まりました。

第一部の基調講演は、神戸大学大学院工学研究科(建築学)講師の山口秀文先生、及び徳島大学環境防災研究センター客員教授の中西敬先生に講演いただきました。

山口秀文先生のテーマは、

「兵庫津の近世・近代と今と未来—歴史的資源を活かしたまちづくりにむけて—」

1. 兵庫津の素朴な疑問
なぜ兵庫津は直角に折れ曲がっているのか?等10の例題を解説いたしました。
2. 歴史的認識から未来の想像創造。
3. 兵庫津の空間と社会 祭りを具体的例題にしました。
4. 2021年兵庫津ミュージアム初代県庁館開館から今後の中央市場再整備にかけての兵庫津中心の整備
5. 歴史的資源を掘り起こし、顕在化・みえる化するため
神戸市営地下鉄の駅名を兵庫津・中央市場前駅
神戸中央市場移転後の用地利用の提案
来年完成の神戸市歴史公文書館の名前に岡方倶楽部名を愛称として公募案
など、大変興味深い講演でした。

中西 敬先生のテーマは、「兵庫運河のおいたち 今とこれから」について

兵庫運河の開設経過の後、運河の現状では自ら水中撮影した画像で2枚貝戻ってきた魚を見ながら地域団体と地域小学校がアマモの育成や、真珠貝での真珠の養成の結果、アマモが増え、脱炭素に効果を発揮し、アサリが増えている事例から“生き物と人と環境をつなぐ”兵庫運河の今後のキーワードの大変興味深い講演でした。

2部のパネルディスカッションでは、実際にアマモの育成や真珠貝の養殖に従事されている、「兵庫運河真珠貝プロジェクト」会長の道林幸次さんより長年にわたり兵庫運河で真珠貝育成を通じて小学生とのコラボを行っている活動の報告をいただきました。

漁師でもある「兵庫運河を美しくする会」の糸谷謙一さんから小学校の学年別プログラムに造成した自然環境“あつまれ生き物の浜”の活動内容の発表がありました。

兵庫運河沿いにある家具とカフェの「北の椅子と」店主の服部真貴さんより若い仲間と行っている“ウंगाニノハタケ”活動発表があり具体的に説明されました。

「能福寺」の雲井雄善住職より、寺町兵庫津らしく『祭』の認識と広報含め街づくりには活動の継続が必要だと話されました。

その後 中西先生がコーディネーターになり会場の皆さんに記入して頂いた意見をパネラーが所見述べた後
パネラーの具体的な話を受け、参加者から活発な意見が出されました。
共通するのは『兵庫津』に対する熱い思いでした。

中西先生より本日のまとめ(キーワード)を発表致しました。

- ① もっと知る: 地元を知り、発信する
- ② もっとつなぐ: 時間(歴史)と空間(場所)をつなぐ。旧兵庫津ではなく、神戸港、兵庫運河を含む新兵庫津に概念を広げ、交わる。
- ③ 形にする(見直すことも含む): プランを作る、拠点やシンボルを造る、祭りごとを創る。
- ④ 続ける: 上記の①～③、さらに今回のようなシンポジウム・フォーラム・ミーティングを繰り返すし続ける。

「津」の意味は「港や船着き場」の他に「わきでる、あふれる、うるおう」という意味がある。

新しいことがわきでて、あふれ広がり、うるおう兵庫津。

締め 「(一社)よみがえる兵庫津連絡協議会」 会長 高田誠司より

熱気あふれた会場参加者に御礼と初めて実現した兵庫津の運河と岡の活動コラボの継続した

取り組みの必要が述べられました。

主催 兵庫漁協協同組合
(一社)よみがえる兵庫津連絡協議会

共催 兵庫運河を美しくする会
兵庫運河真珠貝プロジェクト
兵庫津日本遺産の会
兵庫県立兵庫ミュージアム